# 夜間学校

回船・争議・労・日雇
釜日労ヨコ
TEL 632-4273
連絡先

**6月15日 今晩7じより**
**西成市民館にて**
**多くの仲間の参加を！**

**仕事を保障せよ！**
**会館をつくろう！**

## 人が人たるに怒る心と自己表現

"釜ヶ崎差別"、我らの上におおいかぶさる差別を中心に、ここ二・三回、夜間学校は話をしている。

横浜・寿町でおきた、中学生による青カン者襲撃事件や大阪・南署が青カン者に対して強制した指紋採取、写真撮影の話などを聞くと、釜の仲間の多くは、これらの裏に我々に対するベツ視、差別がある、と正しく断言する。

しかし、でありながら、自分自信の上に、まさに、今、現実におおいかぶさっているものとは認識できていないようだ。

個々人、自分自身の体験としての被差別・差別されたと感じたことを聞くと、あまりないという。

ただ、釜の外で、でなく、釜の中の商店主や、飯場・現場でクソッと思うことがある、という声はある。

差別は、人と人との間の、グループとグループの間の関係の中で生じる。だから、釜の中だけで、あるいは飯場・現場を中心にしてだけ生活していれば、なかなか感じにくいかも知れない。

釜ヶ崎に、釜ヶ崎の日雇労働者に対する差別は、

①単身労働者が多く
②ドヤ住まいで
③就労形態が日雇いという不安定なもので、
④仕事が肉体労働で、よごれる

そういうグループに対する、家族持ちで、一見安定した職につき、釜のヨゴレとは関係がない別社会に自分はいると思い込んでいるグループからかえられるものである。

釜の住人、日雇労働者の発の①から④までの特徴をその原因という現状までを正しく知って、理解していない人々は、我々が、日本全体から見ては少数部分としてしか認識できないので、きわめて特異な存在として目にうつる。

釜の働く我々を特異な存在と感じる人達は、自分の生活を一般的な基準と思いこむことによって、それからはずれている我々をベツ視するにいたる。そして、具体的に、我々と出会う時、または釜ヶ崎のことを誰かと話すとき、ベツ視をあらわにし、差別する。

夜間学校では、よく頭にきたという話を聞く。怒りを感じた時、ベツ視を感じた時、そこには差別があるだろう。

我々は怒れる心を大切にしなければならないだろう。怒りを感じる心をとぎすまし、適確な自己表現によって反撃しなければならない。

# 差別!? あんまりなぁ〜 おこってもはじまらんし…

世間一般の「上品」な人々は、毎日、汗と泥にまみれて働く我々を見て「汚い」と顔をしかめ、仕事にアブレてアオカンを強いられている釜の仲間を「ナマケ者」と非難する。このような理不尽な蔑視と差別によって釜をはじめとする全国の日雇労働者はさまざまの苦痛と不利益をこうむっている。

夜間学校に参加した仲間からも、この差別にもとづく苦痛と不利益の体験がさまざまに語られた。多くの仲間は、その日々の体験から、寿の労働者殺傷事件が決して他人事ではないということを知っている。

飯場や現場のオヤジは、自分使うことに利益を見いだしていることをたなにあげて、「釜の人間は仕事をおぼえるよりやめる方がはやい、釜から来た人間はダメだ」と言う。

行政や警察は釜の労働者を強権的に取り締ろうとするだけで、我々の要求をまともにとりあげようとは決してしない。

商店街やドヤでは毎日、屈辱的で非人間的な対応を受けている。

釜の労働者は誰もが二の差別に苦しめられ、腹を立てているのだ。

では、どうしたらいいのか。

ある参加者は「腹は立つがどうしようもない」と語った。

絶望的な気持になるほどに、現在、我々に対する差別の構造は強大だ。だからその参加者は「一生懸命努力して釜を抜け出す」しかない、とも語った。

だが、本当にそうなのか、これに対して、釜日労のメンバーから「かつて、労働者の団結した力で、あの憎むべき暴力手配師どもを追放した思いを思い出そう」という発言がなされた。

また、他の参加者からは「自分の納得のゆかない差別的な対応には、その場で対応すべきだ。現実に負けない自分をつくりあげよう」という意見が出た。そのとおりだと思う。決して立き寝入りせずに、その場その場で、きちんとケリをつけてゆくことがまず出発点だ。しかし、同時に、労働者個々人の努力や心がまえだけでなくなるほど、差別確かだ。

ある参加者が言ったように「差別することによって利益を受ける奴らがいるという、現在の社会の仕組みが問題」なのだ。労働者ひとりひとりの怒りを結集し、団結の力によって、具体的な差別の状況にひとつひとつきっちりとケリをつけてゆくことが必要ではないだろうか。

現在の地獄のようなアブレ状況を打ち破ってゆくためにも、この日雇労働者差別をなくさなければならない。いつまでも、やられつづけているわけにはいかない。黙って使い捨てられ、殺されるわけにはいかないのだ!

「差別が最終的にもたらす結果は死である」ということが忘れられてはならない。

青カン者を見て差別感が生まれるのではなく、差別を生みだす構